

医短入試で出題ミス

5人が追加合格に 夏休み中、報告遅れる

医療技術短期大学部が今年一月に実施した入試で、出題ミスがあったことが明らかになった。短大は採点をやり直し、五人を追加合格とした。このうち三人が入学を希望しているという。三人はいずれも他の短大に通学しており、来年四月に転入学する予定。同短大の学長を兼ねる北原保雄学長らが九月十三日、記者会見で明らかにした。

出題ミスがあったのは、一般入試の化学の問題のうち、酸化還元に関する設問。十四力所の空欄に二十六個の語群から正解を選び回答させる問題だったが、二力所の空欄に当てはまる語がなかった。

短大は、この二つの小問を削除し、化学の受験者三百五十二人全員に、この小問の得点四点を加算して集計をやり直した。その結果、看護学科で一人、衛生技術学科で四人が追加合格となった。



謝罪する北原学長(本部棟ゲートルームで)

したところ、衛生技術学科の二人は入学を辞退したが、同学科の二人と看護学科の一人は入学を希望した。このため短大は、来年度に転入学さしめても検討されており、その職員の話によると、結局封書が開封されたのは一週間後の二十七日。さらに、この事実が出題委員に伝えられたのは、十日後の九月六日になってからで、翌七日に入試の実施委員長だった二宮治彦教授に報告された。報告が遅れたことについて坂庭部長は「(文書に)八月下旬までに返事がほしいと書いてあり、八月末までは教員が夏休みだったこともあって、職員が急がなかったのではないかと」という。その後、十二日に坂庭部長らが北原学長に説明を行

い、入試ミスとして公表した。ミスの原因について坂庭部長は「出題委員が混乱したため」と説明している。化学の問題は、短大の化学の教員三人のうち、複数の教員が作成し、相互にチェックしていたという。入試委員会も一昨年からのチェックを行っていたが、語句のチェックにどこまで目をつけていたか、という点について、坂庭部長は「今後、入試委員会のチェックを厳格に行う」と述べた。

事態を重く見た短大は、九月二十五日の教授会で調査委員会を設置し、原因の調査を進めている。また、再発防止策として、学外からの出題委員を増やす一方、入試試験改善委員会「で改善策を検討する。坂庭部長は「今後は筑波大の教員にチェックを頼んで二重三重に万全を期したい」と述べた。

教職員有志が主催 法人化シンポジウム開かれる

遠山教文部科学大臣は六月十一日に行われた経済財政諮問会議で「大学の構造改革の方針(遠山プラン)」を正式表明した。遠山プランでは、国立大学の再編・統合、民間の発想の経営手法を導入した「国立大学法人」への移行、第三者評価による競争原理の導入と国公立大学「トップ三十校」の育成などが示された。

また、九月二十七日には、



シンポジウムの模様(2H201で)

省に提出した。中間報告では「遠山プラン」を前提に、二〇〇四年度からの法人化を目指すとしている。

本学でも有志による法人化問題シンポジウム実行委員会(世話人・松本栄次教授)「地球科学系」が主催する「第一回法人化問題シンポジウム」が九月二十九日、二H201教室で開催され、教職員・学生ら約八十人が参加した。

第一部は若田進氏(財団法人日本農業研究所研究員)による講演が行われた。若田氏は「世間的に認められない研究に金を費やすことが科学の発展には重要。法人化で科

が九月二十九日、二H201教室で開催され、教職員・学生ら約八十人が参加した。

第一部は若田進氏(財団法人日本農業研究所研究員)による講演が行われた。若田氏は「世間的に認められない研究に金を費やすことが科学の発展には重要。法人化で科

が挨拶。本学を取り巻く状況を説明し、それを受けて卒業生が社会人の経験をもちにディスカッションを行った。

参加者からは「建学当時は臨床重視を目指していたが、基礎医学重視に戻っている(医学)といった意見や、中には「構内が汚く、街灯も少なくて危険。こんな大学には子供を入れたくない(体育)」と厳しい声も聞かれたが、

「治安は気になるとは思いますが、学内環境は素晴らしい(比文)」。環境の改善には、学生、教職員一人一人の努力が必要だ(自然)という意見も多かった。

また、大学と卒業生の連携について、双方が関心を持ち続けられるような努力が必要という意見で、卒業生と大学とは遠距離恋愛の関係がよい(社工)といったユニークな意見も出された。

ホームカミングデーは、卒業生と本学との連携を深めることを趣旨とし、大学周辺でイデオロギカルな懇親会が開かれた。

座談会は本学会館特別会議室で開催され、北原保雄学長

ホームカミングデーは、卒業生と本学との連携を深めることを趣旨とし、大学周辺でイデオロギカルな懇親会が開かれた。

座談会は本学会館特別会議室で開催され、北原保雄学長

ホームカミングデーは、卒業生と本学との連携を深めることを趣旨とし、大学周辺でイデオロギカルな懇親会が開かれた。

座談会は本学会館特別会議室で開催され、北原保雄学長

大学院再編

改革の波
博士課程

人文社会科学部

今年四月、筑波大学大学院に三つの新しい研究科(博士課程)が誕生した。その中の一つ、人文社会科学部は法律、政治、経済など社会科学系と文学、歴史など人文系を統合し、新しい研究領域の開拓と政策科学的課題に力点を置くものだった。

新研究科の基になったのは、人文社会科学部の五研究科(哲学・思想、歴史・人類学、文芸・言語、社会科学、国際政治経済学)の独立性が強く、基礎研究を重視する十二専攻を「研究科六専攻」に統合再編した。

「両分野の統合は私の知る限り主要大学では全国で初めて。

スタツフの規模も人文社会科学部は日本最大」と林史典研究科長(文芸・言語学系)は言う。

そうした新研究科のあり方を象徴するのが「現代文化・公共政策専攻」だ。例えば、多発するネット犯罪にどう対応するか。社会学やメディア論など複数の研究分野が共同して課題に取り組み、その研究成果を社会に還元することを目指す。「新たな研究分野が生まれ、他分野の研究者、学生間に新たな連携を生むことになる」と川那部保明教授(現代語・現代文化学系)はいう。そのような研究として

「教育から教育法、教育制度学、法の倫理、チエコの歴史、地域問題、チエコ文学まで幅広い問題に対応する。身体障害者の問題をとり上げ、身体論や教育の劇団を研究する院生もいる。「新専攻の母胎となった政治・社会学系と、現代語・現代文化学系などの統合により複雑な領域にまたがる特別プロジェクトや新研究が生まれる(林研究科長)という期待もある。今年終了する鈴木英一教授(現代語・現代文化学系)の「東西言語文化の類型論」はそのさきがけとされる。辻中豊教授(社会学系)を中心とし、日本と諸外国の公共政策を哲学、歴史、文化の面から裏づけし、その解決策を導く。また「担当教官によって内容

今年入学した院生は、「一期生なので熱意が違ふ。メーリングリストや設備を自分たちで補ってきた。ただ、先輩がいなくて不安なところもある。論文を書くタイムスパンや留学、休業の情報も乏しく、研究科の方向性がいま一つ不明瞭だ」と不安と不満は隠せない。教員の中には肯定的に映ったセミナーも、「雰囲気は素晴らしいが、実際に横のつながりが生まれるのか」という意見もある。

統合一つという意見もある。社会学系と、今までのスタツフの寄せ集めではなく、多彩な教授陣が望ましい」と厳しく指摘する院生もいる。

基礎研究があるそかになるという危惧は恐らく当分、消えそうにない。「文学、哲学など基礎研究分野は直接的に公共政策と関連しない。普遍的な問題にどうかが人文社会科学部研究科の大きな課題だ」と、

「治安は気になるとは思いますが、学内環境は素晴らしい(比文)」。環境の改善には、学生、教職員一人一人の努力が必要だ(自然)という意見も多かった。

また、大学と卒業生の連携について、双方が関心を持ち続けられるような努力が必要という意見で、卒業生と大学とは遠距離恋愛の関係がよい(社工)といったユニークな意見も出された。

「治安は気になるとは思いますが、学内環境は素晴らしい(比文)」。環境の改善には、学生、教職員一人一人の努力が必要だ(自然)という意見も多かった。

また、大学と卒業生の連携について、双方が関心を持ち続けられるような努力が必要という意見で、卒業生と大学とは遠距離恋愛の関係がよい(社工)といったユニークな意見も出された。

「治安は気になるとは思いますが、学内環境は素晴らしい(比文)」。環境の改善には、学生、教職員一人一人の努力が必要だ(自然)という意見も多かった。

また、大学と卒業生の連携について、双方が関心を持ち続けられるような努力が必要という意見で、卒業生と大学とは遠距離恋愛の関係がよい(社工)といったユニークな意見も出された。

「治安は気になるとは思いますが、学内環境は素晴らしい(比文)」。環境の改善には、学生、教職員一人一人の努力が必要だ(自然)という意見も多かった。

また、大学と卒業生の連携について、双方が関心を持ち続けられるような努力が必要という意見で、卒業生と大学とは遠距離恋愛の関係がよい(社工)といったユニークな意見も出された。

「治安は気になるとは思いますが、学内環境は素晴らしい(比文)」。環境の改善には、学生、教職員一人一人の努力が必要だ(自然)という意見も多かった。

また、大学と卒業生の連携について、双方が関心を持ち続けられるような努力が必要という意見で、卒業生と大学とは遠距離恋愛の関係がよい(社工)といったユニークな意見も出された。

「治安は気になるとは思いますが、学内環境は素晴らしい(比文)」。環境の改善には、学生、教職員一人一人の努力が必要だ(自然)という意見も多かった。

また、大学と卒業生の連携について、双方が関心を持ち続けられるような努力が必要という意見で、卒業生と大学とは遠距離恋愛の関係がよい(社工)といったユニークな意見も出された。

人社統合、新たな連携生む

今年四月、筑波大学大学院に三つの新しい研究科(博士課程)が誕生した。その中の一つ、人文社会科学部は法律、政治、経済など社会科学系と文学、歴史など人文系を統合し、新しい研究領域の開拓と政策科学的課題に力点を置くものだった。

新研究科の基になったのは、人文社会科学部の五研究科(哲学・思想、歴史・人類学、文芸・言語、社会科学、国際政治経済学)の独立性が強く、基礎研究を重視する十二専攻を「研究科六専攻」に統合再編した。

「両分野の統合は私の知る限り主要大学では全国で初めて。

スタツフの規模も人文社会科学部は日本最大」と林史典研究科長(文芸・言語学系)は言う。

そうした新研究科のあり方を象徴するのが「現代文化・公共政策専攻」だ。例えば、多発するネット犯罪にどう対応するか。社会学やメディア論など複数の研究分野が共同して課題に取り組み、その研究成果を社会に還元することを目指す。「新たな研究分野が生まれ、他分野の研究者、学生間に新たな連携を生むことになる」と川那部保明教授(現代語・現代文化学系)はいう。そのような研究として

「教育から教育法、教育制度学、法の倫理、チエコの歴史、地域問題、チエコ文学まで幅広い問題に対応する。身体障害者の問題をとり上げ、身体論や教育の劇団を研究する院生もいる。「新専攻の母胎となった政治・社会学系と、現代語・現代文化学系などの統合により複雑な領域にまたがる特別プロジェクトや新研究が生まれる(林研究科長)という期待もある。今年終了する鈴木英一教授(現代語・現代文化学系)の「東西言語文化の類型論」はそのさきがけとされる。辻中豊教授(社会学系)を中心とし、日本と諸外国の公共政策を哲学、歴史、文化の面から裏づけし、その解決策を導く。また「担当教官によって内容

今年入学した院生は、「一期生なので熱意が違ふ。メーリングリストや設備を自分たちで補ってきた。ただ、先輩がいなくて不安なところもある。論文を書くタイムスパンや留学、休業の情報も乏しく、研究科の方向性がいま一つ不明瞭だ」と不安と不満は隠せない。教員の中には肯定的に映ったセミナーも、「雰囲気は素晴らしいが、実際に横のつながりが生まれるのか」という意見もある。

統合一つという意見もある。社会学系と、今までのスタツフの寄せ集めではなく、多彩な教授陣が望ましい」と厳しく指摘する院生もいる。

基礎研究があるそかになるという危惧は恐らく当分、消えそうにない。「文学、哲学など基礎研究分野は直接的に公共政策と関連しない。普遍的な問題にどうかが人文社会科学部研究科の大きな課題だ」と、

「治安は気になるとは思いますが、学内環境は素晴らしい(比文)」。環境の改善には、学生、教職員一人一人の努力が必要だ(自然)という意見も多かった。

また、大学と卒業生の連携について、双方が関心を持ち続けられるような努力が必要という意見で、卒業生と大学とは遠距離恋愛の関係がよい(社工)といったユニークな意見も出された。

「治安は気になるとは思いますが、学内環境は素晴らしい(比文)」。環境の改善には、学生、教職員一人一人の努力が必要だ(自然)という意見も多かった。

また、大学と卒業生の連携について、双方が関心を持ち続けられるような努力が必要という意見で、卒業生と大学とは遠距離恋愛の関係がよい(社工)といったユニークな意見も出された。

「治安は気になるとは思いますが、学内環境は素晴らしい(比文)」。環境の改善には、学生、教職員一人一人の努力が必要だ(自然)という意見も多かった。

また、大学と卒業生の連携について、双方が関心を持ち続けられるような努力が必要という意見で、卒業生と大学とは遠距離恋愛の関係がよい(社工)といったユニークな意見も出された。

「治安は気になるとは思いますが、学内環境は素晴らしい(比文)」。環境の改善には、学生、教職員一人一人の努力が必要だ(自然)という意見も多かった。

また、大学と卒業生の連携について、双方が関心を持ち続けられるような努力が必要という意見で、卒業生と大学とは遠距離恋愛の関係がよい(社工)といったユニークな意見も出された。

学内ネットワークを攻撃 ユーザーの自覚が必要

九月十八日に発見された新種のコンピュータウイルス、ニムダ(正式名称はNimda)が本学にも影響を与えている。ニムダウイルスは、ウィンドウズ版インターネットエクスプローラを使い、感染したホームページを閲覧すると自動的に感染するなどの特徴が強いことが特徴である。感染した場合、大量メール送信、ファイル改ざん、不正アクセスなどの被害が予想される。

本学では、九月一日の高速キャンパスネットワークシステム稼働に伴い導入されたファイアーウォールによって、ウイルスの侵入を防いでいるが、ニムダを防ぐことは今のところできない。十八日夜からニムダによる学内ネットワークへの攻撃が活発化、学内ネットワークへのアクセスが急増し、学内と学外の通信が不安定な状態になった。

これを受けて緊急ネットワーク小委員会(委員長・片岸一助教授)電子・情報工学系)は二十日午前九時、学外から学内ネットワークへのアクセスを一部拒否する措置をとった。しかし、状況は改善されず、同委員会は二十一日

「治安は気になるとは思いますが、学内環境は素晴らしい(比文)」。環境の改善には、学生、教職員一人一人の努力が必要だ(自然)という意見も多かった。

また、大学と卒業生の連携について、双方が関心を持ち続けられるような努力が必要という意見で、卒業生と大学とは遠距離恋愛の関係がよい(社工)といったユニークな意見も出された。

多発同時テロ

筑波でも広がる波紋

多様な立場から考える

同時多発テロが発生して一カ月。アメリカ合衆国はニューヨークの世界貿易センタービル崩壊現場で復興作業を進める一方、八日未明、アフガニスタンにミサイル攻撃、世界は最悪の局面に突入した。今回の事件を複雑な思いで受け止めるアメリカ出身の教員、難しい立場に置かれたパキスタンからの留学生に話を聞いた。中東問題の研究者、大学院生からは「今こそ冷静なイスラム理解を」という意見も出ている。(本紙・大塚智、船越千都、社会工学類、武田めぐみ、比較文化学類、藤井隆宏、社会学類、丹野直美、人文学類)

「テロは聖戦ではない」

ジャワエド・アハマトさん(パキスタン、工学研究科三年) 同時多発テロについてどのように思うか。 テロは一番いけない。パキスタンはアメリカを支持している。イスラム教の聖戦では女性や子供、老人を殺してはいけないことになっている。今回の世界貿易センタービルの事件は聖戦ではない。 テロをどこで知りましたか。 日本の友人から聞いた。そのあと、インターネットやテレビで確認した。 現在どのような情報を手に入れているか。 インターネットでパキスタンの新聞を読んだり、CNNのホームページを見たりしている。 テロ以降、アハマトさんの周辺では何かあったか。 何も変わらない。日本人の友人に聞かれると、パキスタンとイスラムの立場などを説明する。

軍出動「テロ防止のため」

小学校から高校までニューヨーク州ウッドストックで過ごしたスティーヴン・ジョン・タンブル講師(米)

今回の事件をどう思うか。 ショックを受けているが、五、六年前からこういう事件が起きている。アフガニスタンやパキスタンの民族の歴史が苦みの連続で、普通の社会と異なる。だからこそテロ指導者も現代社会と離れた考え方をしているのだ。 ニュースの入手方法は、日本のテレビニュースを見ている。NHKが、妻の好みにてたまにニュースステーション、朝のワイドショーも見ています。三、四日おきにインターネットでCNNやニューヨークタイムズの記事も読む。 事件の原因は何だと思っ

か。 今、イスラム教徒は世界のシステムが公平でないと思っ

ている。歴史をみると、第二次世界大戦時の日本も同じ理

はるか。 戦争以外の方法で問題を解決してほしい。戦争になれば多くの人が死ぬ。アフガニスタンは二十年前から貧しく、食糧がない人はパキスタンに逃げ込むしかないだろう。 そうなるとパキスタンは大変だ。こうした現実を知って日

本もこの問題を解決するために手伝ってほしい。 何か特別に訴えたいこと

はありますか。 戦争以外の方法で問題を解決してほしい。戦争になれば多くの人が死ぬ。アフガニスタンは二十年前から貧しく、食糧がない人はパキスタンに逃げ込むしかないだろう。 そうなるとパキスタンは大変だ。こうした現実を知って日本もこの問題を解決するために手伝ってほしい。

「心配で何も手につかない」

留学生Aさん(パキスタン、国際) 今回のテロのことを知ったときどのように感じたか。(航空機がビルにつく映像を見て)初めは信じられなかった。友人から「これは事実なのよ」と言われ、これこそショックを受けた。母国の友人や家族とは連絡を取ったか。 はい。みんなもすごくショックを受けていて、誰がやったのか、なぜこんなことをしたのかとびっくりしていた。 今回のテロに関してどのような印象を持ったか。 罪のない人々を巻き込むテロは絶対にあつてはならないことだ。テロを起こした人を捕まえて、罰してほしい。そうしないと今後テロは増え、地球上に安全な場所が無くなってしまふ。 アメリカは報復攻撃に踏み

切つてしまったが、母国の両親にすぐ電子メールを送ったが返事がなく、心配で何も手につかない。テレビを見ていても本当はどのような状態なのかかわからなくて、自分の国が心配だということ以外何も考えられない。 テロの後、周りの環境が変わったことはあったか。 時間があれば、友人となぜテロが起きているのか、誰が犯人なのか、などを議論する。み

んな母国の両親や友人のことを気遣つてくれ、友人や知人が増えたように思う。 このようなテロが起きないために、私たちはこれからどうすればよいと思うか。 人を見るべき、性別や人種を区別して見ることが大切だと思ふ。大人になって考えが固まってしまう前に、いろいろな考え方のできる人間になれる。テロを起こすような考え方は生まれないと思ふ。

アメリカのこうした態度に納得しているか。 今回の事件は日本人がアメリカには理解できない。テロリストは「神風」のように、「世界は不公平だ」という意識を持っていたのではないか。 犯人はアラブ人とされて、ビンラディンは数年前にアメリカに戦争宣言をしてい

る。国家指導者ではないが、戦争を起すこととしていたのだから今回の事件に際しては責任がある。CIAなどの情報が公開されていなくとも責任はある。CIAなどがアメリカ人としてプッシュ大統領の「証拠がある」という主張を信じなければならぬ。それが嘘ならプッシュも罪を犯すことになる。(情報は)絶対とは言えないが、かなりの確率で正しいのではないか。

アメリカの同時多発テロの部が先鋭化し、過激な行動に出るのだという。 また、タリバンは「イスラム原理主義過激派」と呼ばれることが多い。イスラム思想を研究している塩尻和子助教(聖戦)は、個人の義務である六信五行には入らないが、なければならぬ」といふ。「パレスチナやイスラエルに医療施設、医薬品を援助したり、教育機関を

設置するなどの小



世界貿易センタービルに2機目が突撃する瞬間(ロイター=共同提供)



事件後、大学図書館には「テロ関連専門コーナー」を設置した

「貧富の差が一因に」

塩尻 和子助教

イスラム世界を俯瞰するといふ意味で共同体の義務とされる。理系エリート学生を中心に若者たちがイスラム復興主義に入り貧しい人々を支援したり紛争を解決したりしようとするが、その中の一因に、戦間行為を伴うジハードが先鋭化し、過激な行動に出るのだという。また、タリバンは「イスラム原理主義過激派」と呼ばれることが多い。イスラム思想を研究している塩尻和子助教(聖戦)は、個人の義務である六信五行には入らないが、なければならぬ」といふ。「パレスチナやイスラエルに医療施設、医薬品を援助したり、教育機関を

「マスコミの報道に疑問」

兵庫 剛さん(地域2年)

直後、ニュース番組に中東の専門家を呼んだことについて、中東やイスラムが敵であるという大前提に立っているからではないかとみる。本学の学生の反応については、メディアの情報発信が多い。 一般の人、例えば田舎にいる親や家族などは、テレビを見てイスラムを悪だと思ってしまう。いる場合があった」といふ。 「同じ画像を繰り返し流すことによりアラブ人の印象が悪くした」といふ。事件発生

30人が議論

テロ事件を考える会議

それを受けて、参加者から素直な感想や意見が述べられた。今回の事件は情報が多すぎて、何が正しいかわからない。マスコミが反アラブ世論を作っている。など報道に対する批判的な声が目立った。報道もテロと同じ殺人だ。イスラム原理主義者が悪いのではなく、テロ犯人がたまたまイスラム原理主義者だっただけだと思ふ。 など、アメリカの行動に疑問を持つ感想も多かった。 会議を主催した筑波地域開

発研究会の江崎歩さん(医学四年)は「今回の事件は学生にとってもみずこせない問題だ。しかし意見を言う機会はない。今、マスコミなどはアメリカやヨーロッパの立場からしか報道していない。世界には、いろんな立場の人がいるということを知るのも大切ではないか」と語った。 おこわり、「異文化見聞録」(留学生の目)は休みま

新機能紹介

履修申請もウェブから

来年四月から導入される、新学務システムの目的は、学生・教員・事務区の三者のコミュニケーションの親密化と、教育環境の改善だ。学務システムが一新することによって、一体何が変わるのだろうか？大学側が総力を挙げて取り組む新システムの全貌を、様々な角度から見ていこう。(本紙・松尾洋平「人間学類 坂越彰」社会工学類、山内晴美「比較文化学類」)

表示、印刷することになる。さらに、事務区にある証明書自動発行機からは、成績証明書や卒業見込証明書を取得できるようになる。

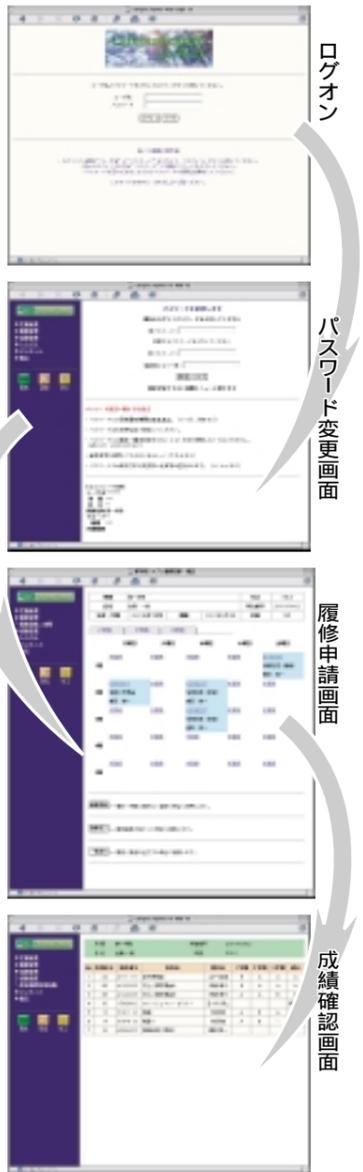
アンケート回答

教員などが実施するアンケートに、ウェブを通して回答できる。アンケート機能を用いて小テストや出席をとる授業が出てくるかもしれない。

掲示・呼出

学生の呼出も、電子メールによって行われる。休講など、事務区の掲示は、学内外のパソコンだけでなく、iモード、Jスカイ、Ezwebなどの携帯端末から見ることが可能だ。

住所変更届け



ログイン

パスワード変更画面

履修申請画面

成績確認画面

新学務システムのデモ画面

新学務システム愛称募集

新学務システム運用委員会は、システムの愛称を募集している。表の愛称は、ドメイン名にもととも、ウェブで表示される新学務システムのトップページに常に表示される。応募締切は十一月十六日、応募点数は制限なし(一応募一作品)。問い合わせは、新学務システム運用委員会、新学務システム愛称募集事務局。担当は学務部学務第一課システム開発。電話は0298・53・2211

応募資格	本学教職員、学生
作品内容	自作、未発表のもの
応募方法	必要事項を記入の上、FAXまたは電子メールで送信 FAX 0298・53・6303 メール gakumu-daiichika@sec.tsukuba.ac.jp
必要事項	愛称(フリガナ) 愛称の由来、住所、氏名(フリガナ) 年齢、性別、所属、電話番号またはメールアドレス
応募期間	2001年10月15日～11月16日まで
発表	2001年11月下旬予定
表彰	最優秀賞1点 表彰状及び副賞 優秀賞5点 表彰状及び副賞

今後の展開

セキュリティ

不正アクセスは二重防御

二〇〇三年度からは、大学の学務もウェブ化される。卒業判定、進級判定、教職免許取得支援、教室管理、開設授業科目一覧といった機能は、学務専用ウェブページに集約される。また、学務専用ウェブページにアクセスできるような不正アクセスを防ぐ。また、外部からの攻撃には、九月に第一期工事が完成した「高速キャンパス」の情報ネットワークシステムに統合してゆく。

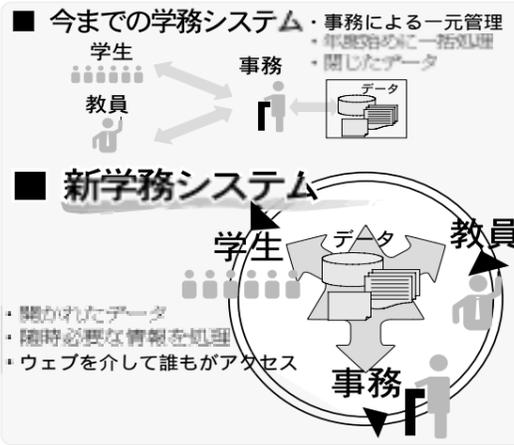
導入まで待ったなし

「コンセプト」

データの共有が鍵

情報の流れがかわる

申請などの書類を集め、学情にある大型コンピュータを用いて、パッチ処理と呼ばれる一括処理を行う。この仕組みでは、決められた期間を過ぎて、追加情報を処理することは難しくなってしまう。また、刻一刻と変化する情報をリアルタイムでコンピュータに反映できず、データが現実を正しく表現しない状況が生じがちである。今となっては、大型コンピュータによるパッチ処理方式は時代遅れだ。このシステムでは、事務区が決められた期間に履修

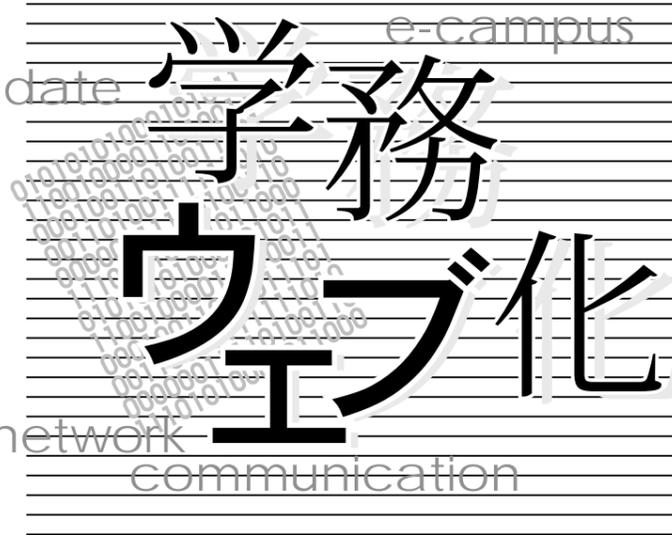


学生側の注意点

新学務システムの導入にあたって学生がやらなければならないことがいくつかある。まず、学生の呼出は電子メールで行われるため、メールアドレスを準備しておく必要がある。四月になると、学情にパスワード再発行の手続きをする学生が殺到すると予想されるので、今のうちから準備しておいた方がよい。また、ウェブページ上の掲示を、携帯電話で見ようと思えば、iモード、Jスカイ、Ezwebに対応した機種

パスワード管理は厳重に

修ミスにはこのほか気を付けない。さらに、この新学務システムにアクセスできる端末にはパスワードがある。一人で何回もパスワードを教える、他人がパスワードを盗み取ると、他人がアクセスできなくなる。そのため、履修申請の際には、あらかじめ履修科目を決めておく、打ち込むだけにしておくようなマナーも身に付けておくべきである。当然のことだが、インターネットを使う程度のパソコン使用



学生

履修申請

履修申請も、ウェブページに各事務区で配布されていたが、今後は、ウェブページで行う。四月の申請期間は今まで通り。

成績表

今まで成績表は、学期ごとに各事務区で配布されていたが、今後は、ウェブページで

これらのサービスに用いられたデータはCSVファイルで出力できる。自分の授業を履修している学生の基本情報を取り出すことも可能だ。成績報告書、写真、異動、賞罰、取得資格を、いつでもウェブを利用する。自分の担当している授業科目の履修状況をいつでもウェブで表示し、印刷できる。CSVファイルとして出力することも可能だ。アンケート機能

教員

担当科目

成績報告書、写真、異動、賞罰、取得資格を、いつでもウェブを利用する。自分の担当している授業科目の履修状況をいつでもウェブで表示し、印刷できる。CSVファイルとして出力することも可能だ。アンケート機能

事務

学生情報表示

必要な情報を提供。学務に開く全てのデータを、汎用データ抽出機能(SQL)を自動生成を用いて取り出すことができる。例えば、留年中の学生の成績といったデータを表示、印刷することができる。

本学の独自性に対応

新学務システムは、わが国の大学で共通な学務処理を行うソフトウェアをベースとしている。同様のシステムは、他大学にはない点であり、このシステムには、今年八月になってから大きな壁となった。そのため、この学務システム独自のシステムと運用に、学独自のシステムと運用に、大学側は、大きな自信を持っている。

不正アクセスは二重防御

学生の情報をはじめ、様々なデータがウェブを通してアクセスできるようになると、不正アクセスを防ぐ。また、外部からの攻撃には、九月に第一期工事が完成した「高速キャンパス」の情報ネットワークシステムに統合してゆく。

授業選択の味方

シラバスに迫る

図1 シラバスをどれくらい活用していますか？

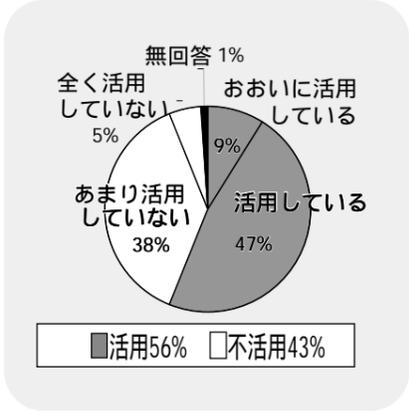


図2 シラバスに満足していますか？

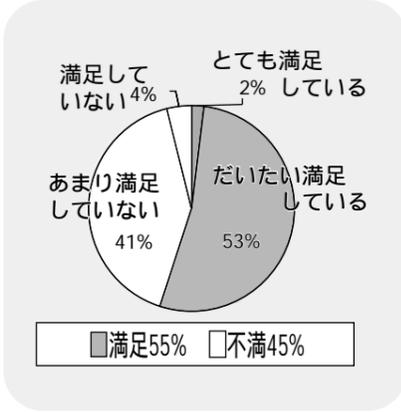


図3 満足している(していない)理由をお答え下さい。

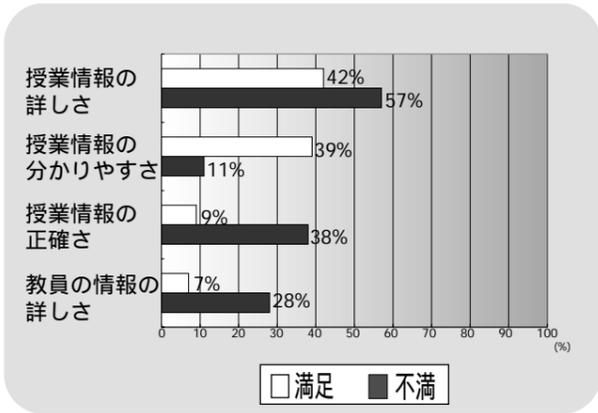


図4 ウェブ化についてどう思いますか？

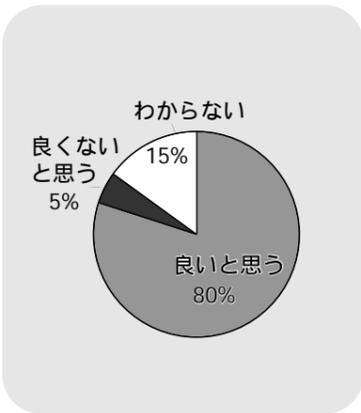
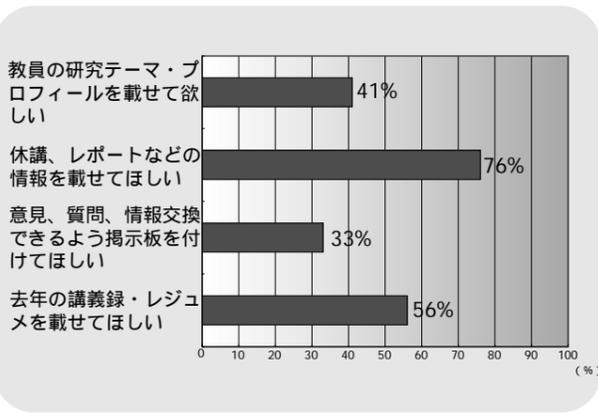


図5 ウェブ化した場合、どのような要望をしたいと思いますか？



アンケート調査

「活用している」56%

「満足している」55%

アンケートは今年の九月下旬から十月上旬にかけて、医学部を除く各学類、専門学群の学生を対象に実施した。回答数は四百五十八人。(結果は10面参照)

「履修申請前」9割「あなたはシラバスをどれくらい活用しているか」という問いには「活用している」が五十六%、「活用していない」が四十四%だった(図1)。ただし、学類によってばらつきがあり、人文、自然、情報、体育では「活用していない」が上回っている。

シラバス 年度初め、学生なら誰もがもらうものだ。履修申請の前、自分の学類のシラバスと首っ引きになり、授業を探そう。そのシラバスが、揺れている。全代会の働きかけで、社会学類はウェブ化による拡充を検討した。そもそも、今のシラバスには何が求められているのか。本紙は、各学類のシラバスの現状を把握するとともに、学生にアンケート調査を行った。さらにシラバス作成に携わる教員に話を聞いた。

(本紙・川崎大輔、藤井隆宏、森田彰一「社会学類」望月和美「比較文化学類」)



各学類のシラバスは図書館で見られる(中央図書館で)

「満足している」が五十五%、「満足していない」が四十五%だった(図2)。「満足している」の理由を複数回答してもらったところ、「授業の情報が詳しい」が最も多かった(図3)。「満足していない」の理由を複数回答してもらったところ、「授業の情報が少ない」が最も多かった(図3)。

「ウェブ化についてどう思いますか？」という問いには「良いと思う」が八割、「良くないと思う」が一成、「わからない」が一成だった(図4)。

ウェブ化賛成8割 ネット上の公開について「あなたはどう思いますか？」と質問したところ、「良いと思う」が八割を占め、ほとんどの学生が歓迎していることが分かった(図4)。理由は「ネット上の公開について、あなたはどう思いますか？」と質問したところ、「良いと思う」が八割を占め、ほとんどの学生が歓迎していることが分かった(図4)。理由は「ネット上の公開について、あなたはどう思いますか？」と質問したところ、「良いと思う」が八割を占め、ほとんどの学生が歓迎していることが分かった(図4)。

情報の与えすぎも問題

社会学類長 辻中豊教授



「先生は書かなくてもいい、これとこれだけ書いて下さい」と言っても知れないが、基本的に教員の自主性に任せたいと思う。これからの社会学類のシラバスについてどうお考えですか。

綿密な授業計画は当然

工系スカリキ ユラム委員長 村上正秀教授



「シラバスを活用してない人が五割近くになります。特に理系の場合だと三、四年生は、おのずと取るべき授業が決まってくる。教科書、参考書も指定してあるし、内容をしっかり見なければなりません。最初からそんな綿密な計画を立てられないとの意見もありません。そんなことはない、それははっきり言っておきたい。工学系の教員は、休講も情報開示の面だけでなく、授業の充実が求められています。」

学生と教員結ぶ役割を

比文カリキ ユラム委員長 宮本陽一郎助教授



「ほとんどの学生がシラバスを履修申請時にしか利用していません。現在のシラバスがその本質から、ずれてしまっていることを表している。そもそも(アメリカにおける) Syllabus は、教員が、いつ、どのような切り口で、どのようなテーマで授業をするかを伝えるメディアだ。だからシラバスは教員と学生

の間には信頼関係を生む。しかし本学の「シラバス」は、そのようなメディアとしての役割が縮小している。「詳しく」が重視される状況についてはどう思いますか。授業情報が詳しいもの、そうでないものがあるのは無理もない。シラバスを全く体験していない世代の先生に、週割りのシラバスを作ってもらいたい。この公開には意味があると思う。本学への入学を考えている人には授業の中身を知る

「インターネットにより充実していくのが良いが、学生は決められた情報、つまりシラバスだけに満足するのではなく、直接、研究室を訪れて教員と人間的な接触をすることが必要だ。学生は教員に積極的にアプローチをすべきだ。」

「もちろん、するに越したことはないが、作る側にとってはどうしても負担がかかる。専門の職員を雇えば話は別だが、この大学はそんな体制になっていない。それに、休講情報などは、授業に出席していない人が欲しがっているだけとも考えられる。教員のウェブページは意図的に利用されていません。教員のページは、論文の情報交換から始めたものが多く、研究がメインで、学群のレベルまで考えて作っている人は少ないのではないかと。

「この背景にもシラバスの大きな問題が見える。この情報交換が評価基準ではなく、授業の体系や内容の難易度に重点をおくものであれば、学生が主体性をもつことにつながるので、よいことだ。そういう意味で学生による授業評価も重要なのではないだろうか。」

読み比べ 充実度は学類でばらつき ウェブ化の動き盛んに

シラバスは各学類、専門学群でその構成、内容、情報量が異なる。それぞれのシラバスを読み比べてみた。表は構成

ある。人文は授業概要と備考の二つで構成。社会は授業目標、授業内容、使用教科書が一つの項目にまとめられており、欄の数が少ない。授業計画 授業がどのようなテーマで進行していくかを紹介するものが授業計画だ。生物、資源、工学、芸術では週ごとに何をやるのか、ほとんどの授業が具体的に示している。それに対し、人文や文系ではほとんど触れていない授業が多く、内容が簡潔すぎる場合もある。社会や日・日はほとんど授業計画に触れられていない。学類の中でも教員、授業によりその詳しさにばらつきがある。特に文系の学類や社工で、その傾向が強い。基本的には授業概要、参考文献、単位取得要件などによって構成されているが、授業計画の欄を設けている学類も

	人文	社会	自然	比文	日・日	人間	生物	資源	社工	国際	情報	工シス	工基	体育	芸術
授業計画		x				x									
成績評価基準															
オフィスアワー															x
教官情報											x				x
使用教室	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
科目番号	x	x		x						x	x				x
ウェブ化の現状	x	検討中		検討中	検討中	検討中					検討中	検討中			x

ほとんど掲載されている 一部で掲載されている xほとんど掲載されていない
自然学類では、例年専攻ごとにシラバスを作成していたが、今年度から新入生用と2年生以上用(専攻別)とに分けた。その上で、2年生以上は冊子を配らずウェブのみで公開した。医学専門学群は、学年ごとにカリキュラム一覧等を配布しているが、他学類のシラバスとは性質が異なるため、ここでは扱わないこととした。

シラバスの歴史 全学導入は93年から 一足早く国際で作成

本学でシラバスが全学的に導入されたのは、一九九二、三年度、今から十年ほど前のことだ。きっかけは一九九七年に文部省(当時)が実施した大学設置基準の大綱化だった(1)。これにより、各大学のカリキュラムの自由度が大幅に増えた。本学では、九一年度から教養を身につけるための「一般科目」の枠組みが廃止され、各学類、専門学群の裁量が増え、幅が増えた。具体的には、それまで一般科目として総合科目や体育、外国語のほか、人文、社会、自然の基礎分

目「一覧」だけだった。様式は現在と変わっており、内容は「授業概要」の欄に書かれた三、四行の文章で判断するしかなかった。先生の特色なども全部先導から教えてもらっていた(九四年度生物学類卒OB)と当時を振り返る人もいる。一九九一年度の教育審議会(二)で、重点目標の一つにシラバスの作成が示された。このころ、教養部の解体が話題になったが、本学にはもともとそうした組織はなく、カリキュラムの変更だけで対応した。二 教育審議会 本学の教育問題について全体の方向性を決める会議。教育担当副学長を議長とし、各学類、専門学群、研究科の代表者などで構成される。91年に策定した平成4年度(92年度)教育関係重点目標に、「教育内容・方法の整備充実(シラバスの作成など)」が含まれている。国際関係学類(現・国際総合学類)では一足早く九一年度から導入している。留学経験のあつた学生が要望したことがきっかけで、カリキュラム委員会の教員が中心となって作成した。委員の一人だった波多野澄雄教授を占めた。



31 臓器移植

一九九七年に臓器移植法が施行されてから四年がたつ。国内では、これまでに十六例の脳死臓器移植が行われており、本学附属病院でも昨年三月、脳死者からの腎臓移植が行われた。この手術の執刀医で、臓器移植に関する様々な基礎研究に取り組んでいる湯沢賢治講師(臨床医学系)に話を聞いた。

臓器移植で最も問題となるのが拒絶反応である。体内に異物が侵入しようとする、それを攻撃し排除しようとする働きが起こる。これが免疫である。移植された臓器に対しては、排斥しようとする攻撃がなされ

拒絶反応の抑制を研究
特殊な医療から脱却を



緊迫した手術の様子

湯沢講師は、免疫抑制剤を使わずに拒絶反応を抑える研究にも取り組んでいる。具体的にはドナーの骨髄細胞をレシピエントに移植したり、ある種の薬を使用することによって、「免疫寛容」と呼ばれる状態を作り出すのだ。

湯沢講師は「研究や診療も大切だが、移植外科医として、基礎研究だけでなく、附



卒業生からの手紙

「NPOってなあに?」ボランティアとどう違うの?といった質問をよく受ける。湯沢講師は「ボランティアは、社会を動かすための過程や手続きであり、人々が作りあげるもので、民主主義は社会を動かすための過程である」と答える。

私はNPO法人「世界の子どもネットワーク」の代表理事、NPO法人茨城NPOセンターの理事を務める。NPOセクターの基盤を強化するためのプログラムを具体的に展開している実務家です。みなさんは大学で、専門とされる領域から、社会づくりの多様な手法を学んでいくわけですが、社会をつくる実践的なプロセスには、少なからず関与することになります。今年三月は米国のバードの学生といくつかのプロジェクトを共に進め、彼らにとつての民主



現場の声を政策に生かせ NPO基盤の強化に尽力 吉田里江さん

九月十九日から二二日まで開催されることになった「国連子ども特別総会」に、私は日本のNGOセクターの代表として出席する予定でしたが、米国の多発テロの影響で延期となりました。国連子ども特別総会「国連子ども特別総会」は、九月十九日から二二日まで開催されることになった「国連子ども特別総会」に、私は日本のNGOセクターの代表として出席する予定でしたが、米国の多発テロの影響で延期となりました。国連子ども特別総会「国連子ども特別総会」は、九月十九日から二二日まで開催されることになった「国連子ども特別総会」に、私は日本のNGOセクターの代表として出席する予定でしたが、米国の多発テロの影響で延期となりました。

伝統文化サークル合同企画

2度目は「天上大風」

和の世界を身近に体験

伝統文化サークルの合同企画「天上大風」が九月二十三日、開学記念館で開催された。このイベントは、普段触れる機会のない伝統芸能を多くの人に体験してもらおうと、華道クラブ、茶道部和敬清寂社、書道部、津軽三味線倶楽部無絃塾、筑波能・狂言研究会、邦楽部、焼き物を作る会、落語研究会が参加した。企画は、今年四月にも行われたおり、今回が二度目となる。当日は気持ちのよい秋晴れとなり、訪れた見学者はとんぼが飛び交う会場の中、ゆるやかな舞臺で、能・狂言研究会の狂言方有志による小舞(狂言における舞)と狂言(本狂言)が演じられ、緩急とりまぜた舞臺構成で観客を楽しませた。続く邦楽部の演奏には、今回初めて「二胡」という弦が二本だけ張られた擦弦楽器が加わった。奏者の林隆伯さん(工学三年)は、「去年の四月から通信教育を使い、独学で練習した。フラットが付いていないため、音程をとるのが難しい。鳥唄



の演奏はよくてきたと思う」と語った。落語研究会が巧みな話芸で会場を湧かせ、無絃塾が様々なジャンルの曲を三味線で演奏して喝采を博した。市内から来たという家族連れは、「津軽三味線が好きなので来てみた。とても素晴らしい」と感動した様子だった。建物内では、茶道部によるお点前や、書道部の書展、焼き物を作る会の作品展示、華道クラブの池坊華展と生け花の実演が行われた。また書道部が設けた体験コーナーでは、参加者が顔ほこの大きさの筆と、半畳大の紙を使い、「食欲の秋」など思い思いの字を書いていた。この企画の代表で邦楽部の虎見康豊さん(資源三年)は「開場の直前まで慌ただしかった。成功したかどうかこれから話し合いたい。お客さんは前回より増えたと思う。



逆の立場で見る歴史観

アラブが見た十字軍

アミン・マアルーフ 著



常木 晃

あつたことを私が知ったのは、アミン・マアルーフが著した「アラブが見た十字軍」の記述からであった。本書は題名が端的に表しているように、アラブ側の歴史家や年代記作者の証言に主に基づいて書かれた、十一世紀末から十三世紀末までの二百年間にわたる十字軍の東地中海地域への侵略の歴史である。それまでヨーロッパ側の、つまり侵略した側から書かれた十字軍遠征の物語は無数にあつたが、侵略された側からの視点で書かれた反十字軍の本がほとんどなかったため、フランス語の原著が一八九三年に出版されるとすぐに評判となり、翌年に英訳が、そして三年後には日本語訳も出版された。十字軍遠征がヨーロッパ側から見れば聖地回復運動であったとしても、アラブ側から見れば侵略戦争に過ぎないのは自明のことだ。いままでアラブ側から見た十字軍の歴史は、この二十年來調査を続けてきたシリアについて様々な新しい発見が本書にあること、何度も訪れていたアミン・マアルーフにこの言葉が、相手の立場に立つと、いかに正反對のある小さな町に過ぎないか、と教えられる。本書は、その視点で、十字軍遠征の最も悲惨な虐殺と食人事件、とどころが本書によつて、十字軍遠征の歴史が、そしてその歴史観や視点が浮かび上がる。本書は、その視点で、十字軍遠征の最も悲惨な虐殺と食人事件、とどころが本書によつて、十字軍遠征の歴史が、そしてその歴史観や視点が浮かび上がる。本書は、その視点で、十字軍遠征の最も悲惨な虐殺と食人事件、とどころが本書によつて、十字軍遠征の歴史が、そしてその歴史観や視点が浮かび上がる。

成功の鍵握る画廊 アメリカ美術事情

佐藤正明氏が講演

現代アメリカ美術の最精鋭の一人と言われ、「サブウェイ」などで知られる現代芸術家、佐藤正明氏の講演会が、九月二十六日に体芸棟の五二B一教室で行われた。テーマは「アメリカ美術事情」。ニューヨークの街並み

「この企画は互いの活動を見る良い機会だし、親交も深

まる。機会があれば続けてほしい」と語った。画廊、美術学校などスライドを見せながら講演した。「ニューヨークは画廊の力が非常に強い。芸術家が成功しようと思えば、画廊で個展を開いてもらわなければならない。競争率が非常に高い。公募展が一切なく、新人向けの画廊が四つほどあるのみだ」と画廊の意味から語り始めた。佐藤氏は一九七六年、新人向けの展覧会に出展した絵画が、ニューヨークタイムズの美術担当記者の目に止まり、同紙の芸術欄に掲載されたことから、成功への道が開けたという。アメリカの美術学校について、とても自由で、年間予算を学生が決めている。「講義は一切なく、芸術家としてニューヨークでどうサバイバルするかを教わる」とその特色を紹介した。アメリカの現代芸術の実状については「パリからニューヨークに現代芸術が移って四十年、アメリカ芸術は前衛的というイメージがあるが、実はアメリカ人の多くは保守的な絵が好き。一パーセントに満たない人々が現代芸術を支えている。私は学生時代にアートに夢中になり、アメリカに渡った。アートの場合、



秋山 学

都心部では大手私鉄がな お健在であるが、国内の各 地方には、地方色豊かな私 鉄が走っている。今までに 乗った思い出に残る私鉄を 紹介する。 遠州鉄道(新浜松、西鹿 井)など、関西出身のわた しが少年時代に親しんだ しい。だが自動車の氾濫は 地方色ひいては人間各々の 個性の喪失をもたらすよ うな危険を抱くのはたくし みに、移動手段として、 自動車の普及に伴い、特

自動車の普及が生む廃線 地方色豊かな私鉄守れ 自動車の普及に伴い、特

Table with 10 rows and 2 columns: Rank, Book Title, Author/Publisher. Books include 'Project X', 'Education', 'White Dog and Wolf', etc.

筑波小劇場公演 「毛蟹」 ~HOTパンツGO!GO!GO!~ 日時 10月20日(土) 18:30開場 19:00開演 10月21日(日) 18:30開場 19:00開演 場所 中央図書館下 入場料 100円 作・演出 増田健太 連絡先 090-9148-5013 (カヤノ) http://www.ipe.tsukuba.ac.jp/~s990562/tsukusyou.html

筑波小劇場公演 「CUBE」 日時 11月3日(土) 18:30開場 19:00開演 11月4日(日) 18:00開場 18:30開演 場所 2C107教室 入場料 無料 作 藤岡真也、演出 中村健太 連絡先 0298-55-7863 白坏(しろつき) http://www.ipe.tsukuba.ac.jp/~s990562/tsukusyou.html

筑波大学応援団桐葉 第11回桐葉ノ舞 日時 11月3日(土) 開場 16:30 開演 17:00 場所 ノバホール 入場料 無料 主催 筑波大学応援団桐葉 連絡先 Tel/Fax 0298-58-2729 (伊藤) 筑波大学応援団桐葉リーダー部・チアリーダー部・マーチングバンド部の3部による演舞、チアリーディング、マーチングドリル、演奏等を行います。

日本インカレ 初の男女総合V



男女アベック優勝を決め、満面に笑顔をはる選手たち (国立競技場で)

男子 順大に劇的逆転勝ち 女子 ダブルスコア、12連覇

陸上

本学陸上競技部が日本インカレ史上に新たな1ページを刻んだ。女子は12年連続13回目、男子は本学の前身、東京文理科大学時代から数えて10回目の総合優勝を果たした。

男女アベック優勝は今回が初めてだった。(一面参照) 総合優勝の発表がある9月30日の閉会式はあいにくの雨模様。各大学の代表者だけがホームスタンド下のロビーで閉会式を行った。他の選手たちは場内アナウンスに耳をす

ましながら電光掲示板を見つめる。そして男子の総合優勝校が発表された瞬間、本学の応援スタンドは歓声と興奮のつぼみ化した。2位の順大との差はわずかに1点、女子がすでに総合優勝を確実にしていたため、事実上この瞬間に、初の快挙が決定した。陸上競技部の快進撃は、大会初日から始まった。

男子 800メートル 柴田賢一 1分49秒36 1500メートル 柴田賢一 3分46秒10 走り高跳び 外堀宏幸 2メートル18 棒高跳び 木越清信 5メートル30 三段跳び 石川和義 16メートル17 総合得点 108点 優勝(順大) 107点 東海大78.5点 女子 200メートル 遠藤絵美 24秒75 400メートル 湯野真由美 55秒49 500メートル 競歩 小

「男女アベック優勝は部員全員が1点ずつ取った結果だ」と尾懸監督は言う。「男子総合得点の108点中跳躍種目で49点貢献できてうれし」と跳躍ブロック長の渡辺容史選手(同3年)、「みんなの力で勝った」という柴田選手の言葉が弾んでいた。勝利の余韻に浸る一方、「菊川先輩の学生記録とOG

5種目で大会新

荒瀬、復調の兆し

水泳

第77回日本学生水泳選手権が9月4日から6日まで、東京辰巳国際水泳場で行われ、本学水泳部は日本新記録一つを含む大会新記録5つを出し大活躍した。

この言葉を裏付けるように本学勢は大活躍したが、総合優勝は日体大にさらわれた。「今年は、いま一歩及ばなかったが、いまの選手層や入部が予想される新人を考えると、来年は優勝できる」と(野村総監督)と来年に期待する。大会新記録の中には、昨年シドニー五輪に出場した荒瀬洋太選手(同2年)が1500メートル自由形で出した15分23秒19の記録もあった。荒瀬選手は「うちの選

手はレベルなら当然で、予想していた」という。この言葉を裏付けるように本学勢は大活躍したが、総合優勝は日体大にさらわれた。「今年は、いま一歩及ばなかったが、いまの選手層や入部が予想される新人を考えると、来年は優勝できる」と(野村総監督)と来年に期待する。大会新記録の中には、昨年シドニー五輪に出場した荒瀬洋太選手(同2年)が1500メートル自由形で出した15分23秒19の記録もあった。荒瀬選手は「うちの選

手はレベルなら当然で、予想していた」という。この言葉を裏付けるように本学勢は大活躍したが、総合優勝は日体大にさらわれた。「今年は、いま一歩及ばなかったが、いまの選手層や入部が予想される新人を考えると、来年は優勝できる」と(野村総監督)と来年に期待する。大会新記録の中には、昨年シドニー五輪に出場した荒瀬洋太選手(同2年)が1500メートル自由形で出した15分23秒19の記録もあった。荒瀬選手は「うちの選

手はレベルなら当然で、予想していた」という。この言葉を裏付けるように本学勢は大活躍したが、総合優勝は日体大にさらわれた。「今年は、いま一歩及ばなかったが、いまの選手層や入部が予想される新人を考えると、来年は優勝できる」と(野村総監督)と来年に期待する。大会新記録の中には、昨年シドニー五輪に出場した荒瀬洋太選手(同2年)が1500メートル自由形で出した15分23秒19の記録もあった。荒瀬選手は「うちの選

手はレベルなら当然で、予想していた」という。この言葉を裏付けるように本学勢は大活躍したが、総合優勝は日体大にさらわれた。「今年は、いま一歩及ばなかったが、いまの選手層や入部が予想される新人を考えると、来年は優勝できる」と(野村総監督)と来年に期待する。大会新記録の中には、昨年シドニー五輪に出場した荒瀬洋太選手(同2年)が1500メートル自由形で出した15分23秒19の記録もあった。荒瀬選手は「うちの選

全国大会へコマを進める

剣道

団体戦の第27回関東女子学生剣道優勝大会が9月23日、東京武道館で行われ、本学剣道部は決勝で早稲田大を3対0で破り、3年連続10度目の優勝を飾った。

主将の興梠あゆみ選手(同4年)は「2連覇のプレッシャーはあったがみんな、思い切ってやってくれた。11月の全国大会は優勝する意気込みで臨みたい」と話す。第50回記念関東学生剣道優

勝大会が9月16日、日本武道館で行われた。本学は準決勝で法政大に3対1で勝ち、決勝に駒を進めたが、中央大に1対3で惜敗した。チームを引っ張った鳴本敬一郎選手(医学4年)は「みんながまとまっていた良かった。全国大会ではこれだけの力を出し切りたい」と話して、主将の古谷論選手(体育4年)は自分たちの剣道ができた全国では優勝を狙いたい」と話す。

勝大会が9月16日、日本武道館で行われた。本学は準決勝で法政大に3対1で勝ち、決勝に駒を進めたが、中央大に1対3で惜敗した。チームを引っ張った鳴本敬一郎選手(医学4年)は「みんながまとまっていた良かった。全国大会ではこれだけの力を出し切りたい」と話して、主将の古谷論選手(体育4年)は自分たちの剣道ができた全国では優勝を狙いたい」と話す。

勝大会が9月16日、日本武道館で行われた。本学は準決勝で法政大に3対1で勝ち、決勝に駒を進めたが、中央大に1対3で惜敗した。チームを引っ張った鳴本敬一郎選手(医学4年)は「みんながまとまっていた良かった。全国大会ではこれだけの力を出し切りたい」と話して、主将の古谷論選手(体育4年)は自分たちの剣道ができた全国では優勝を狙いたい」と話す。

スポーツ-呼聲

蹴球部 羽生直剛選手(体育4年)



ユニバで決めた決勝点 守備の裏つく鋭い走り

21世紀最初のユニバーシアードが今年8月、北京で開催された。大学選抜で構成された日本代表サッカーチームは予選リーグ、決勝トーナメントを勝ち進み3大会ぶり2度目の優勝を果たした。ウクライナとの決勝戦、日本は1対0で辛くも逃げ切った。貴重な決勝点を叩き出したのが本学蹴球部の

羽生直剛選手(体育4年)だ。「16センチと小柄だけど、瞬発力と持久力を含めて、ディフェンスの裏にシャープに走り込み、ゴール前の詰めで良いシュートが打てる選手」が同部合前、「君が代」を聴いたとき、初めて日本代表であるという実感が湧いたという。その後、このチームで東アジア大会を制し、ユニバーシアードを戦い抜いたから、観客のプーイングで、ベンチの監督の声を通らない。「プーイングにはとまどないが、みんなでもやるとかと思っただけで、決まるとは2対1で辛勝。準決勝のウクライナ戦は、多く、彼らに助けられた。決勝のウクライナ戦前半12分、MFの羽生選手は、(本紙・藤井隆宏)「社会学

秋季リーグ速報

男子	秋季1部リーグ戦が東京のコナミスポーツプラザで9月15日、開幕した。本学は9月30日現在、4勝2敗で3位につけている。
女子	秋季1部リーグ戦が青山学院大学で9月13日、開幕した。本学は9月13日現在、3勝0敗で3位につけている。

ハンド

男子	関東女子1部秋季リーグ戦が7日で行われ、本学チームは8戦全勝で8期連続14回目の優勝を果たした。8月の東日本学生選手権東京インカレでは、東京女子体育大に敗れた。13連勝を逃しており、今回は雪辱戦だった。試合結果は次の通り。
女子	関東女子1部秋季リーグ戦が7日で行われ、本学チームは8戦全勝で8期連続14回目の優勝を果たした。8月の東日本学生選手権東京インカレでは、東京女子体育大に敗れた。13連勝を逃しており、今回は雪辱戦だった。試合結果は次の通り。

ラグビー

男子	関東大学ラグビー対抗戦Aグループが開幕し、本学は7日、埼玉県熊谷競技場で日体大と初戦を戦い、34で敗れた。今シーズンの目標は「対抗戦に勝って昨年に続き大学選手権に出場すること」だが、日体大戦は前半5点のリードを守れず手痛い逆転負けを喫した。
女子	関東大学ラグビー対抗戦Aグループが開幕し、本学は7日、埼玉県熊谷競技場で日体大と初戦を戦い、34で敗れた。今シーズンの目標は「対抗戦に勝って昨年に続き大学選手権に出場すること」だが、日体大戦は前半5点のリードを守れず手痛い逆転負けを喫した。

第27回雙峰祭

3日間の「非日常」体験

雨上がり、ディスコ熱狂

初日はラジオで生中継

二十一世紀最初の学園祭(雙峰祭)が「非日常への冒険」をテーマに、十月七、八の三日間にわたり開催された。今年度は「研究所見学ツアー」を初め、ユニークな学術企画が目立った。三日目の昼は雨にたたられたが、夜には持ち直し、後夜祭のディスコは大盛況だった。一面参照(本紙・森田彰一、天野佳代子、藤田備憲) 社会学類、丸山祐子、人文学類、廣野郁恵、栗田朋洋、比較文化学類、松尾洋平(人間学類)



大盛況のパフォーマンス (松美池ステージで)

第二十七回筑波大学学園祭(局が、本学の音楽関係サークルによる演奏をFMで生中継した。これはNHK、FMで放送している「FM水戸アツプデート」のスペシャルライブとして行われたもので、E.L.L.、足踏み大学など六団体が出演した。

初日の午後、大学会館三階ホールでは、NHK水戸放送「研究所見学ツアー」が好評を博し、もう一つの新企画「ボスター」も好評を博した。

本部企画

新たに研究所ツアー

「研究所見学ツアー」が行われた。学術企画の充実を目標に掲げる今回の学園祭の目玉企画で、ボスター研究センターと加速器センターを一般公開した。約五十人の参加者の、半数以上は一般の人だった。

加速器センターでは測定室や制御室などを回り、放射線発生装置の説明を受けた。四階に突き抜ける加速器本体の大きさに、驚嘆の声が上がった。ボスター研究センターでも実験機が説明が行われた。両センターとも、普段は一般公開されていないため、二年ぶりに復活したCMコンテストも盛況だった。

初日の午後、徳永隆助教(電子・情報工学系)による公開講座「マリオパーティの秘密」が開かれた。人気ゲームソフト「マリオパーティ」に利用されている画像圧縮のしくみを解説し、ソフトウェア技術の最先端を紹介した。また、三日目の午後にも白木仁助教(体育科学系)による公開講座「2001世界水泳」が催された。

二日目の午後一時からは大会学館講堂で若井俊雄氏の講演会が行われた。若井氏は本学芸術研究科出身。在学中に「時間層」で日本美術大賞を最年少で受賞している。卒業後、世界中で数多くの展覧会に出展し、メディアアート界の第一人者として高い評価を得ている。

講演では若井氏が今までに制作した作品が上映された。一つの映像に時間のずれを作った「アナザタイムオブザベース」を実演し、会場を湧かせた。「対話型」の作品が多い若井氏は、作品制作の理念として「見る人が自由に参加できる映像を作りたい」と話す。

一九九七年に坂本龍一氏とコラボレーション・パフォーマンスを行ったことを語り、「最近音楽を映像としてとらえることに興味を持って」と話した。

三日目は日中、一時模範店が中断されるほど雨がひどくなり、後夜祭の開催が危ぶまれた。だが、夜には天気も回復し、後夜祭のディスコには大勢の客が集まり、大盛況のうち学園祭は幕を閉じた。

充実の学術企画

恋愛テスト、骨量測定も

井助教の研究をもとに今回のイベントを企画した。コンピュータの指示に従って質問に答えてゆくだけの簡単な方法で、科学的な理論をもとにした恋愛傾向や二人の相性が分かるようになっていく。人の往来が多い松美池を利用したものが多く、磁気前というところもあり、カップを利用したこの装置は世界で四で、MRIによる骨粗鬆症の診断が行われた。物理工学系MRラボが主催したもので、二日目の午後二時半から、H201教室で犯罪被害者遺族の原田正治氏による講演会「死刑制度を問う」犯罪被害者遺族の視点から行われた。

国際人権NGOアムネスティ・インターナショナル筑波大学グループが主催したもので、日本における死刑制度について問題提起した。講師の原田氏は、一九八三年に、保険金詐欺の目的で弟を殺された経験を持つ。現在犯罪被害者の遺族として、現行の死刑制度を批判する立場から、様々な発言をしている。原田氏は、死刑制度に反対する理由として「加害者を助けたいわけではない。死刑を執行することは、加害者の償いの気持ちまで殺してしまうからだ」と語った。講演後には質疑、応答の時間が設けられ、約五十人の聴講者から死刑と終身刑についての質問など、活発に意見が交わされた。



骨密度が簡単に測れる (3G114で)

今回の学園祭は、学系や研究センターにも参加を呼びかけ学術企画の充実が図られた。その結果昨年よりも五つ多い四十六の団体が学術企画を催した。その中のいくつかの企画をのぞいてみた。

松美池前ではコンピュータによる恋愛相性の診断企画「くつき」と相性判断が行われた。主催したのは人間学類三年次二クラス。恋愛の研究で知られる松井豊助教(心理学系)が担任の同クラスでは、心理学の授業で学んできたことを活かそうと、松

初日の午後、松美池ステージで、子ども向けのイベント「ぼくらのドキドキだいぼうけん」が催された。会場は親子連れで溢れかえった。手話サークルは手話を交えて、と話題のトトロの主題歌を合唱。邦楽部による津軽三味線の演奏や、ジャンケン大会などが行われ、子どもだけでなく、大人たちも楽しんでいた。

後夜祭 三日目の夜、曇り降った雨もあがり、午後七時から後夜祭が予定通り実施された。恒例の鏡割りの後、富江伸治・学生生活担当副学長の音頭で乾杯が行われた。「ボスター」コンテストの表彰に続いて、メインイベントのディスコが始まった。今年のDJはmomonija。ダンスミュージックが鳴り響くと瞬間に会場は熱狂に包まれた。ディスコは一時半に渡ったが、学園祭実行委員会委員長の立野寛士さん(自然二年)が、「この日のために四月から頑張ってきた。みんなにお礼を言いたい」と挨拶して学園祭の幕を閉じた。

積木の配達いたします

小さなロボットが、機敏に荷物を運ぶ。その瞬間、感嘆の声が廊下こだまする。今年で十回目となる「つくばロボットコンテスト」。学園祭初日に予選、三日目に本戦が、第三学群棟で行われた。今年のテーマは「エシス棟小荷物配達」。学生の作ったロボットが、棟内の二十力所に小さな積木を配達する。栄冠を勝ち取ったロボットは、「プラックキヤット」。小幡圭太さんをリーダーに、矢島崇史、石岡淳志、榎木拓哉さんら、ロボコン二年目のエシス二年生によるチームだ。担当教員全員が絶賛するこのロボット。本戦では唯一、全ての荷物を完璧に運搬し、ほかのチームを圧倒し

つくばロボットコンテスト



優勝チームのロボット(第三学群棟)に積木を配達する。

た。九月の段階で、今年も試運転にゆっく時間をかけたという宣言通り、ロボットは一週間前に完成していた。一位のロボット「わかばちゃん」は、直前二日で組み立てたと言った。高度な電子回路は使っていない。阿波谷朋樹さんを筆頭にエシス一年三人のチーム。三位の「ランボックス」は竹内栄二朗さん(エシス三年)が一年生三人を率いて制作。予選では直進不能で暴走したが、本戦では荷物九個を配達と健闘。竹内さんは高専出身で今年エシスに編入。ロボコン歴は六年。随所にその技術が生かされていた。今年も例年比レベルの高い戦いになった。油田信一助教(機能工学系)も、決勝後、「このロボットも意図通りに動いている。ここまで高レベルのロボコンは日本には無い」と満足げだった。

EVカーを展示

三日目午後、三学食堂前でEVカー(電気自動車)の展示が行われた。EVカーは、日本EVクラブが企画した「二〇〇一年充電の旅」の途中、本学に立ち寄った。今回の展示会には、ドライバの古澤浩史さん(理工学研究科二年)も参加。古澤さんは「突然、電池が切れ、近くの民家に充電を頼んだら「帰れ」と追い返されたこともあった」と、終わりに近づいた旅の苦労を語り、「EVカーの現状は、まだまだ充電が不便だが、そのデメリットを見知らぬ人々へのふれあいというメリットに変えることが

できた」とふりかえった。旅は今日(二十一日)東京庭園美術館でゴールを迎える予定だ。

全学停電・断水

附属図書館は、全学停電・断水に伴う受変電設備の定期点検のため臨時に休館する。当日は、電子図書館サービス(蔵書検索システム、オンライン図書購入請求サービスなど)も利用できなくなるので注意しよう。休館日は以下の通り。

中央・医学図書館 十月二十日(土)～二十一日(日) 休館
体芸図書館 十月二十日(土)

宿舎は19日から 十月二十、二十一日の両日に本学施設に定期点検に伴う全学停電・断水が実施される。宿舎は十九日に停電、断水が行われる。時間は午前八時から午後五時。ただ、一の矢宿舎では三二～三三号棟のみ断水する。二十、二十一日は、一の矢地区で仮設発電機の停止・復帰前後、三十分ほど断水する。宿舎の人は、十九日の冷蔵庫、トイレには十分注意しよう。

Who's Who?

ルーセント社の研修に参加した

まさみ 阿久津匡美さん (工シス2年)

「憧れのルーセント社で世界の学生と交流できる。これはチャンス、と思ったんです」

ルーセントテクノロジ社は米国最大の通信会社であるAT&T社の研究開発部門。同社のベル研究所はこれまでに11人のノーベル賞受賞者を輩出するなど多くの業績で知られている。同社の日本支社ホームページを開くと3人の学生の笑顔が載っている。その中の1人が工シス2年の阿久津匡美さんだ。

目指すは「宇宙飛行士」

ロボット開発にも挑戦

阿久津さんの夢は「ミッドタイム(使っていないようなパソコンを共有して、宇宙飛行士になる)」。小論文には「宇宙ステーションと地上の情報とを繋ぐ」と考えた。このアイデアが採用された。今、彼女は学園祭のロボットコンテストや、小学生を科学技術に触れさせる宇宙少年団のボランティアなどに新しいことに挑戦している。思ったらすぐ行動に移すのが阿久津さんだ。

本人の希望により、写真の掲載を控えております。



天満敦子コンサート

11月14日ノバホールで

11月14日、ノバホールで「天満敦子ヴァイオリンの夕べ」が開かれる。このコンサ

「天満敦子ヴァイオリンの夕べ」は11月14日から16日までの3日間、大会会館で開かれる。天満さんは個性的な弾き方で知られる異色のバイオリニスト。ロン・テイボー国際音楽コンクール特別銀賞などの受賞歴を持つ。1992年「文化使節」として訪れたルーマニアの公演ではホルンベスクの遺作「望郷のパラード」の楽譜を委託され、93年に日本での初演を果たしている。使用楽器は、巨匠アントニオ・ストラディヴァリウス晩年の名作だ。

今演奏するのは「望郷のパラード」のほか、「愛のあいさつ」「G線上のアリア」など9曲。

陽子線医学利用研究センター長の秋根康之教授(臨床医学系)は「お子さんでも楽しめるように選曲をしてもらったので、ぜひ一般のみなさんにも来場していただきたい」と話している。

入場料は、一般3千円、高校、大学生2千円、小学生以下1千円。問い合わせはノバホール(☎029-852-5881)まで。

「憧れのルーセント社で世界の学生と交流できる。これはチャンス、と思ったんです」

ルーセントテクノロジ社は米国最大の通信会社であるAT&T社の研究開発部門。同社のベル研究所はこれまでに11人のノーベル賞受賞者を輩出するなど多くの業績で知られている。同社の日本支社ホームページを開くと3人の学生の笑顔が載っている。その中の1人が工シス2年の阿久津匡美さんだ。

「憧れのルーセント社で世界の学生と交流できる。これはチャンス、と思ったんです」

ルーセントテクノロジ社は米国最大の通信会社であるAT&T社の研究開発部門。同社のベル研究所はこれまでに11人のノーベル賞受賞者を輩出するなど多くの業績で知られている。同社の日本支社ホームページを開くと3人の学生の笑顔が載っている。その中の1人が工シス2年の阿久津匡美さんだ。

「憧れのルーセント社で世界の学生と交流できる。これはチャンス、と思ったんです」

ルーセントテクノロジ社は米国最大の通信会社であるAT&T社の研究開発部門。同社のベル研究所はこれまでに11人のノーベル賞受賞者を輩出するなど多くの業績で知られている。同社の日本支社ホームページを開くと3人の学生の笑顔が載っている。その中の1人が工シス2年の阿久津匡美さんだ。

「憧れのルーセント社で世界の学生と交流できる。これはチャンス、と思ったんです」

ルーセントテクノロジ社は米国最大の通信会社であるAT&T社の研究開発部門。同社のベル研究所はこれまでに11人のノーベル賞受賞者を輩出するなど多くの業績で知られている。同社の日本支社ホームページを開くと3人の学生の笑顔が載っている。その中の1人が工シス2年の阿久津匡美さんだ。

「憧れのルーセント社で世界の学生と交流できる。これはチャンス、と思ったんです」

ルーセントテクノロジ社は米国最大の通信会社であるAT&T社の研究開発部門。同社のベル研究所はこれまでに11人のノーベル賞受賞者を輩出するなど多くの業績で知られている。同社の日本支社ホームページを開くと3人の学生の笑顔が載っている。その中の1人が工シス2年の阿久津匡美さんだ。

「憧れのルーセント社で世界の学生と交流できる。これはチャンス、と思ったんです」

ルーセントテクノロジ社は米国最大の通信会社であるAT&T社の研究開発部門。同社のベル研究所はこれまでに11人のノーベル賞受賞者を輩出するなど多くの業績で知られている。同社の日本支社ホームページを開くと3人の学生の笑顔が載っている。その中の1人が工シス2年の阿久津匡美さんだ。

留学説明会、17日に

本学との協定校への短期留学に関する説明会が、10月17日午前9時半から(6カ月から1年)について、大学の国際会議室で行われる。

世界18カ国に59校ある、本学の協定校への短期留学の時期は学校によって異なる。海外留学に興味のある学生は参加しよう。

無線LANカード貸出し

学術情報処理センターは、9月から無線LANカードの貸し出しを始めた。

貸し出し期間は1カ月、枚数は1人1枚。貸し出しを希望する人は、学情が定めた借用書に記入し、学生証(職員は職員証)を持参の上、学情の事務室まで。借用書は事務室のほか、次のウェブページからも入手可能。http://www.cc.isuhba.ac.jp/form

哲学・思想学系 文芸・言語学系 附属図書館共催特別展 日本古代の学問と萬葉集

日時 10月22日(月)~11月2日(金)
平日 9:00~17:00
土曜・日曜 13:30~17:30

場所 中央図書館1階 貴重書展示室及び和装本閲覧室
附属図書館所蔵の漢籍・写経等の資料を通じ、古代の学問のありようと「萬葉集」の研究史を紹介する。

問い合わせ 図書館部情報管理課図書館公関係(53-2348)

第1回 「法人化」と大学改革を考えるシンポジウム

日時 11月7日(水) 17:30~
場所 1D206教室

【第1部 講演】
・「大学改革と法人化の現状と問題点」
講師 森田朗・東大教授(行政法)
・「変わる国立大学の労使関係」
講師 及川茂・日教組UPIセンター長
【第2部 質疑応答】
主催 筑波大学ユニオン(内線 2839)

次号は
11月12日(月)
発行予定です

シネプレックス8つくば ☎39-5600

《10月19日(金)まで》
http://www.cineplex.co.jp

- 『陰陽師』 10:00~、12:15~、14:30~、16:45~、21:00~
- 『カルテット』 10:20~、18:50~
- 『ラッシュアワー2』 12:40~、14:45~、16:50~、21:15~
- 『百獣戦隊ガオレンジャー』
『劇場版 仮面ライダーアギト』
10:25~、12:30~、15:50~
- 『ブリジット・ジョーンズの日記』 12:25~、14:55~、17:00~、19:05~、21:25~
- 『YAMAKASI ヤマカシ』 10:05~、19:00~
- 『ウォーターボーイズ』 12:00~、18:35~
- 『千と千尋の神隠し』 10:00~、12:40~、15:20~、18:00~、20:40~
- 『スコア』 10:40~、17:55~
- 『コレリ大尉のマンダリン』 13:10~、21:10~
- 『ファイナルファンタジー』 10:10~、16:40~
- 『ドラキュリア』 14:30~、19:10~、21:20~
- 『トゥームレイダー』 10:30~、12:45~、14:00~、15:00~、16:15~、17:15~、19:30~、20:45~、21:45~

つくば美術館 ☎56-3711

○アンソール版画展
10月20日(土)~11月18日(日)
一般 380円 高・大生 280円 小・中生 180円

TSUKUBA INFORMATION OF CULTURE

ノバホール ☎52-5881

- 中川昌巳(昌正)フルートリサイタル
10月18日(木) 19:00~
S席 3000円 A席 2500円 B席 2000円
- 筑波研究学園都市吹奏楽団
「第15回定期演奏会」
10月21日(日) 14:00~ 全自由席 500円
- 佐藤宏之リサイタル
10月21日(日) 19:00~
前売り 一般 2800円 学生 1800円
当日各200円増
- 筑波大学吹奏楽団「第46回定期演奏会」
10月27日(土) 18:00~
前売り 大人 400円 小・中生 200円
当日各100円増
- パノハ弦楽四重奏団演奏会
10月28日(日) 15:00~
S席 3000円 A席 2500円 B席 2000円
- ロス・ライカス フォルクローレコンサート
10月31日(水) 18:30~
全自由席 4500円
- 筑波大学管弦楽団第50回定期
11月2日(金) 19:00~
指揮 小田野宏之 バイオリン独奏 三浦章広
ブ람ス「バイオリン協奏曲」

チャイコフスキー「交響曲第5番」
当日 800円(前売り700円)

○ベルリン交響楽団
11月6日(火) 19:00~
指揮 エリアフ・インバル
マーラー「交響曲第1番巨人」他
S席9000円 A席7000円 B席5000円

○「ぞうれっしゃがやってきた」
11月10日(土) 15:00~
一般 1800円

つくばカピオ ☎51-2886

【ホール】

- TEAM 発砲・B・ZIN「ゴメンパー・デ・ショウ」
10月20日(土) 14:00~
S席 3000円 S席Y 1500円 A席 2500円
A席Y 1000円 ※Yは高校生以下
- 白石加代子&渡辺えり子「おやすみ、母さん」
10月25日(木) 19:00~
S席 3000円 S席Y 1500円 A席 2500円
A席Y 1000円 ※Yは高校生以下
- S・クレフ第6回演奏会
10月28日(日) 14:00~ 無料
- つくば舞台芸術フェスティバル2001
インバル・ピント・カンパニー
「Oyster (オイスター)」
10月31日(水) 19:00~
S席 3000円 S席Y 1500円 A席 2500円
A席Y 1000円 ※Yは高校生以下